

2021 年度「NPO 法人・礎の石孤児院」活動報告書

2021 年度は、コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな活動の制約を受ける一年でしたが、インターネットを用いて現地とつなぎ、オンラインで報告会等何度か行うことができました。

コロナ禍のために子どもたちの学校が休校になり、特にフィリピンの就学支援の子どもたちは昨年度に続き 2021 年度もオンライン授業のみとなり、カンボジアでも一時期オンライン授業になりました。

ザンビアでは、認定 NPO 法人「難民を助ける会 (AAR Japan)」様から譲り受けた養鶏場を改築して、スラム地域の HIV 孤児の子どもたちのための学校を開校し、約 70 名の子どもたちを受け入れ、就学支援を行いました。

また、「関西エンジニアリング (株)」様からザンビアの土地購入のために 670 万円のご寄付をいただき、首都ルサカ郊外の土地を購入いたしました。

また、一般財団法人「ゆうちょ財団・国際ボランティア支援事業部」様から「ザンビア・ルサカ市ンゴンベ地区の HIV 孤児のため」に約 49 万円、公益信託「今井記念海外協力基金」様から「カンボジアの子どもたちのための学習支援と自立支援」のために 798,000 円、公益財団法人「東京コミュニティ財団・あおぞら基金」様から「フィリピン就学支援児への学用品購入のため」15 万円、公益財団法人「東京コミュニティ財団・ファンドクリエーション基金」様から「カンボジアの学習支援スタッフの給与のため」に 5 万円の助成金をいただくことができました。

また、事務局で毎月インターネット・ミーティングを行い、インターネットを用いての広報活動を強化し、ホームページ、Facebook、ツイッター、インスタグラム等の SNS、ニュースレター、パンフレットなどを通して、礎の石孤児院の働きを多くの方々に知っていただくことができました。

* 国内の活動 *

- 4 月 * 礎の石孤児院理事会をオンラインで開催し、総会の議案を承認した。(4/17)
 * 一般財団法人「ゆうちょ財団・国際ボランティア支援事業部」様から「ザンビア・ルサカ市 ンゴンベ地区の HIV 孤児のため」に、約 49 万円の助成金を受け取った。
 * 公益信託「今井記念海外協力基金」様から「カンボジアの子どもたちのための学習支援と自立支援」のために、79万8000円の助成金を受け取った。
-
- 5 月 * 第 20 回 NPO 法人「礎の石孤児院総会」をオンラインで開催した。(5/29)
-
- 6 月 * 都内の私立高校で礎の石孤児院の講演会が行われ、真境名総主事が講演した。

-
- 7月 * 長野県白馬で行われたキャンプで礎の石孤児院の報告会が行われ、カンボジア、フィリピンの現地責任者がオンラインで報告を行なった
- 8月 * 日本に一時帰国していたブラジルの現地スタッフ松本弘子さんがブラジルに戻った
-
- 9月 * 関西エンジニアリング(株)様から、ザンビアの土地購入のために670万円のご寄付があり、ザンビアに送金した。
-
- 10月 * ザンビア・ルサカ市郊外に中、高等学校建設のための土地を購入し、土地代の半額の支払いをした。
-
- 11月 * 公益財団法人「東京コミュニティ財団 あおぞら基金」から「フィリピン就学支援児への学用品購入のため」に15万円の助成金を受け取った。
* 公益財団法人「東京コミュニティ財団 ファンドクリエイション基金」から、「カンボジアの学習支援スタッフの給与のため」に、5万円の助成金を受け取った。
* 東京都による認定NPO法人更新のための現地調査が行われた。(1回目)
* 真境名総主事が、キュレーションサイト”AF”(エーエフ)を運営しているインターナショナルファッションマガジン commons & sense/commons & senseman 様の取材を受けた。
-
- 12月 * 東京都による認定NPO法人更新のための現地調査が行われた(2回目)
* 東京都から認定NPO法人としての認定を受けた。(2021年12月26日から5年間)
-
- 2022年**
- 1月 * 礎の石孤児院の新年チャリティコンサートが高円寺で行われ、カンボジア孤児院、ザンビアHIV孤児の子どもたちもオンラインで参加した。
-
- 2月 * カンボジア孤児院の現地責任者 前田克子さんが日本に一時帰国した。
* ブラジル孤児院の 松本弘子さんが日本に一時帰国した。
-
- 3月 * 長野県の白馬で礎の石孤児院の報告会が行われ、カンボジア孤児院の現地責任者前田克子さんがカンボジア孤児院の報告をした。
ザンビア孤児院の現地スタッフ・ムタレ桜子さんも、ビデオレターでザンビアのHIV孤児就学支援の報告をした。報告会の後募金も行われ、約7万円の募金が集まった。

- * 日本に一時帰国していたカンボジア孤児院の現地責任者前田克子さんが、カンボジアに戻った。
- * 日本に一時帰国していたブラジル孤児院の松本弘子さんが ブラジルに戻った。

*** カンボジア孤児院の活動 ***

【4月】

- * 阿片さんよりご支援の品々を郵便で受取る。
- * 前田のコロナワクチン接種1回目は、外務省から接種希望者の問い合わせがあり申し込んで、4月に1回目を接種する。

【5月】

- * ロックダウンで4月に免許更新が出来なかったが、ロックダウン解除後に更新を行う。
- * 強風で建物の後ろの壊れた部分の補修作業を行う。
- * メソジストスクールの中高生達の前期試験が5日間行われる。
- * 孤児院卒業生のカイが果物を差入れてくれる。
- * コロナワクチン接種1回目を、スタッフ5人と子ども3人が受ける。
- * 礎の石孤児院総会にオンラインで参加する。

【6月】

- * コロナワクチン接種2回目を、スタッフ5人と子ども3人が受ける。
- * コロナワクチン接種2回目を、前田が受けに行く。
- * メソジストスクールで、オンラインを使って父兄会が行われる。
- * スタッフ達に、年2回の年金（年功序列補償金）1回目を支払う。

【7月】

- * 洪水状態になった時に水を自分達で汲出せるように電動ポンプ1台を購入する。
- * 男の子達5人がコロナワクチン1回目を接種する。
- * 病気療養をしていたスタッフ1人が、辞めることになる。
- * 孤児院卒業生のスレイレヤとフィリピンの教会の方々、スレイナエ、チーム、メーター、メーン、マイが訪ねて来てくれると共に、沢山の支援品を持って来てくれる。フィリピン教会の方々からも支援品の品々を頂く。

【8月】

- * 12歳以上のワクチン接種1回目を。子ども達3人が受けに行く。

- * ヨシユアが自転車で帰って来ている途中、バイクとぶつかって怪我をして戻って来る。
 - * New Life スクールは9月から新学期となる為、1週間休みとなる。パンニャーとハンナは無事に進級出来る。
 - * 男の子1人が、コロナワクチン1回目を接種する。
-

【9月】

- * 子ども1人が、脇の下におできが出来て、切開手術を受ける。
 - * メソジストスクール1年生のヨナタンが、3日間後期試験を受ける。
 - * 男の子1人が、コロナワクチン2回目を接種する。
 - * お米屋さんが、沢山差入れて下さる。
 - * 6歳～11歳までのコロナワクチン接種1回目が行われるようになり、2人が受けに行く。
 - * メソジストスクールの中高校生クラスが再開して、対面授業となる。後期試験も行われる。
 - * 前田のNGOビザ更新書類を外務省に提出する。
-

【10月】

- * エルサレムの平和を祈る集いに子ども達と共に参加した。
 - * ヴィスナがお盆休みで親族の所に里帰りする。
 - * コロナワクチン接種3回目を、前田が受けに行く。
 - * コロナワクチン接種3回目を、スタッフ2人と子ども3人が受けに行く。
 - * 子ども達のカンボジアのIDカード申請を始めて1年ほど経ち、6人分を受取る。
 - * チャントムが、ITのデザインを学ぶ為、短期のITスクールに入学する。
-

【11月】

- * New Life スクールは、11月から対面授業が再開して登校する。
- * メソジストスクールは、新学期(2022年1月より)が始まるまで11月～12月は休みとなる。但し、9年生は高校受験があるので2週間補習授業を受ける。
- * 前田の1年間のNGOビザが更新されて、外務省からパスポートも一緒に受取る。
- * 日本の福音派の教会から宣教師として来られているクリスチャンのご家族が日本に帰国される為、備品など支援品として持って来て下さる。
- * 車2台の車検を行う。
- * 子ども達を3組に分けて、外に遊びに出掛ける。
- * ハンナがスタッフ運転のバイクに乗って学校から戻ってくる途中、一時意識がなくなりバイクのマフラーの所で火傷を負ってしまう。しばらく様子を見る為、1週間ほど学校を休む。
- * ヨハンの大学が、対面授業再開となる。
- * 高校受験を受けたノエとソティヤが合格の結果を受取る。
- * ヴィスナがバイクで移動中に犬に足を噛まれて帰って来たので、近くのクリニックで手

当てを受け、狂犬病と破傷風のワクチンを受ける。

【12月】

- * コロナワクチン接種3回目を、5人の男の子達が受ける。
- * 他団体で働いておられる日本人クリスチャンの方より、DVDプレーヤーの中古を頂く。
- * 5歳児のコロナワクチン接種が行われて、2回目をタイとアンナが受ける。
- * ナオミが試験に合格して、大学2年生に進めることがわかる。
- * 阿片さんより、船便でご支援の品々が届き受取る。
- * 孤児院卒業生のスレイレヤとメーン、マイが訪ねてくれて、子ども達1人1人にプレゼントを持って来てくれる。
- * 孤児院卒業生のカイが結婚して、奥さんも一緒に訪ねてくれて、食材の差入れを持って来てくれる。
- * 日本の福音派の教会から宣教師として来られているクリスチャンのご家族が日本に帰国される為、備品など支援品として持って来て下さる。
- * スタッフ達に、年2回の年金（年功序列補償金）2回目を支払う。

【2022年1月】

- * メソジストスクールは新学期が始まり、幼稚園、小学校、中学校、高校のすべてが再開する。全員が進級して、新しい学年での授業が始まる。
- * 12歳～17歳までのコロナワクチン接種3回目が始まり、3人が受けに行く。
- * 孤児院でスタッフとして働いていたカンボジア人夫妻が、家族で孤児院を訪ねてくれる。

【2022年2月】

- * 前田が2月8日から3月9日まで、日本に一時帰国することになる。
- * 孤児院卒業生のサヴィーが結婚したご主人と一緒に、カンボジア孤児院に寄付金を送ってくれる。
- * ヨシュアが乗っていたバイクが、盗難に遭う。まだ見つかっていない。
- * 子ども達が通っているメソジストスクールと NewLife スクールは、校内でのクラスター発生の為、休校となる。

【2022年3月】（～3月29日まで）

- * 前田は、3月9日の朝にプノンペンに到着してPCR検査も陰性だったので、隔離なしで入国出来孤児院に戻る。
- * 外務省からオンライン会議の連絡があり、スタッフ1人が参加する。
- * New Life スクールから前期試験の結果が出たので、父兄への結果内容など説明の為の個別ミーティングが行われる。
- * パンニャーの耳の中におできが出来て、病院を受診する。
- * ヴィスナが車とぶつかり当て逃げされ、膝を怪我して戻って来る。傷が深かったので、

近所のクリニックに行つて4針縫つてもらふ。

- * ヴィスナが、4月始めからタイで行われるサッカーの試合の選手としてカンボジア代表の14人の中選ばれる。ポジションは、ゴールキーパー。
- * 孤児院卒業生のカイが、マンゴーを沢山持って来てくれる。
- * 壊れた物干しの溶接修理と、壊れた扇風機と電灯の交換を行う。

*** ブラジル孤児院の活動 ***

5月 * 礎の石孤児院のオンライン総会に参加する。

8月 * 日本への一時帰国を終え、ブラジルに戻る。

2022年

2月 * 日本へ一時帰国する。
東京の高円寺で報告会を行う

3月 * 長野県白馬で報告会を行う。
* 日本への一時帰国を終え、ブラジルに戻る

その他の活動を行ないました。

*** ザンビア孤児院の活動 ***

Cornerstone Of Hope 活動報告

エイズ孤児のための初等・中等学校教育・給食(朝・昼)支援及びコミュニティ活動

<4~6月2学期開校期間>

オンラインスタディツアー開催準備

オンライン国際交流授業等サービスを行う株式会社「With The World」との提携により、世界に関心を持つ学校、個人とオンラインで繋がるプログラム(以下、オンラインスタディツアー)が始まる。4~5月はプログラム開始のための準備期間とされ、使用する映像の撮

影と編集、リハーサルやお礼品の作成等々に用いられ、6月からオンラインスタディツアーの開始となった。

・制服の着用開始

昨年度は私服着用としていたが、季節によっては、防寒具を持っていない子ども達が寒さに震えている様子や、服が汚れているのを気にして登校しない子などが現れたため、セーターを含めた制服をデザイン(一般公募)・作成し、着用する事とした。子どもたちが非常に喜んだ事に加え、コミュニティ内で、一気に学校としての知名度が上がった事は、思いがけない副作用であった。特にこれ以降、頻繁に自分の子どもも入れてほしいと保護者がやって来るようになった。

・コミュニティ活動

日本国際協力事業団(JICA)のプログラムの一環の中で組織された、ザンビアのスラムの環境問題に取り組む団体「Beautiful ZAMBIA」からの協力要請を受け、学校の児童の保護者(女性)を対象としたプラスチックゴミの回収事業を始めた。

スラムのゴミ問題は深刻で、あらゆるところにゴミがまき散らかされて、不衛生な状況にあり、学校の周辺も例外ではない。

Cornerstoneの活動とは直接関係のある活動ではないが、コミュニティとの信頼関係を築き、ニーズを探り、いづれ識字教育や技術訓練等を始めるためのひとつのステップとして、良い機会となっている。

〈6月16日～8月20日コロナ休校期間〉

・オミクロン株の発生により、ザンビア全学校の閉鎖が決定されたため、ほぼ自宅にての仕事となった。ただし現場レベルではダイニングや教室の改装、重病に陥った孤児の保護者への支援等は続けた。

・大阪箕輪市国際交流協会 Mafga 主催の講演会、礎の石孤児院活動報告会等オンラインで開催され、お話しする機会を頂いた。

・「With The World」とのオンラインスタディツアーを4回開催。

・土地の購入資金に関連して、事業計画案を作成。

〈8月23日～9月26日2学期開校期間〉

・日本人駐在員のご夫婦のご厚意により、アリアンス・フランセーズ(仏語学院)に招待され、パントマイムや音楽を鑑賞した。スラムの環境を離れて華やかで豊かな文化に触れた子どもたちは、目を輝かせて楽しんでいた。

・JICA(国際協力実業団)の“世界の笑顔のために”プログラムより、算数セットや顕微鏡、スポーツ用品等のご寄付を頂く。

・土地購入のため、「関西エンジニアリング」のT様とのZoomミーティング。それに伴い、土地探しを始める。

- ・ 難民を助ける会 (AAR) からのンゴンベの土地名義変更手続き完了。
- ・ 「With The World」オンラインスタディツアー 2 回開催

<9 月 27 日～2022 年 1 月 12 日 3 学期開校期間～新学期開始>

- ・ 土地購入の決定、手続き開始
- ・ 制服デザインの賞品の発送と贈呈
- ・ 「With The World」オンラインスタディツアー 5 回開催
- ・ 養鶏場改築→3 教室設置
- ・ 来年の全国統一試験受験者の登録
- ・ 青年海外協力隊員の申請に関わる手続き
- ・ ボランティア主催のクリスマスパーティー開催
- ・ 来年度受け入れ孤児 20~25 名の選定(家庭訪問、学力評価、制服のオーダー等)
- ・ 机・椅子等購入

<1 月 13 日～3 月 1 学期開校期間>

- ・ COH のフライヤー、プロポーザル資料等作成
- ・ 新規教員雇用の採用試験 ・ 韓国 NGO 『Good Neighbors』よりスピーカー、キーボード等の寄付を頂く。*後に中高等 学校建費設支援の手続きを進行中
- ・ Psycho social counseling/HIV AIDS management の資格取得したスタッフと共に、コミュニティの女性対象としたエンパワーメント活動の準備
- ・ 「Beautiful ZAMBIA」2 回開催
- ・ 「With The World」オンラインスタディツアー 5 回開催

*** フィリピン孤児院の活動 ***

2021 年度活動報告<フィリピン> 2002 年から今年までに、礎の石孤児院就学プログラムから計 283 名が学校へ通い、75 名が高校を卒業しています。

フィリピンでは 2 年前からオンライン授業に切り替えられました。
自分の PC を持っていない子どもたちも多く、インターネット環境が整っていなかったり、近くにインターネットカフェも無いような状況の中で、オンライン授業は不可能に見えましたが、この事を通して、何事も取り組んで見なければ分からないということを学びました。

オンラインとモジュールの混合授業は上手く行っています。
子どもたちは学びを深めていますし、何よりも感染から守られています。

昨年度は47名の子どもたち(1年生1名、2年生4名、3年生6名、4年生6名、5年生5名、6年生5名、7年生4名、8年生6名、9年生2名、10年生3名、11年生1名、12年生4名)が就職支援を受けました。

2021年度の学用品の必要のために日本の一般団体から助成金(あおぞら基金)を受けることが出来たことを感謝しています。
学用品は既に各地域担当スタッフを通して、子どもたちに届けました。

現在までにほとんどの就学支援生(5歳~16歳)がワクチンを受けました。
フィリピン政府は3月7日をもって、感染予防規制をレベル1まで引き下げました。
引き続きマスクの着用、消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの義務は遂行されます。
規制引き下げに伴い、3月14日(木)、対面授業の再開に関する保護者会が行われ、各保護者に同意書が配られました。

同意書には以外の2点が書かれています。

- 1 子どもたちを対面授業に出席させることに同意する。
2. 何があっても学校側は責任を負わない。

保護者が同意書にサインした子どもたちは学校で対面授業を受けることが出来ます。
ほとんどの保護者は、まだ感染拡大の可能性があり、安全が保証されていないので、サインしませんでした。私自身も同意せず、サインしませんでした。

現在、サインした保護者の子どもたちを対象に、週4日学校での対面授業が始まっています。他の子どもたちは引き続きオンラインとモジュールの混合授業を受けています。
ただ、スモークーマウンテンの子どもたちは都心部から離れているので授業に参加させることにしました。

また高校生は3月25日に学校で行われた、30分の補習授業に参加し、進級のために、遅れている、または不得意な学科に関して先生から指導を受けました。
今年度の授業は5月末までの予定です。

*毎月・ニュースレターを発行し、全国のパートナー会員様、及びご支援者様に郵送またはメールにて配信しました。(ホームページにはWEB版ニュースレターを掲載)